



モディが変える インド経済



中国を訪問したモディ首相(左)と習近平中国総書記

中国との課題に向き合う 一方で経済関係を拡大へ

インドと中国は長年にわたる文化貿易の歴史を共有しており、そのことが二国間関係を強化する上で重要な要素になっています。過去にはインドと中国との関係は浮き沈みの激しいものでしたが、2002～14年までの間に二国間の貿易量は49.5億ドルから700億ドルへと増大しました。

ナレンドラ・モディ氏の外交政策はモディドクトリンとして歓迎されています。首相就任後の初年度に、米国とのこれまでの不安定なあり方を直すことに取り組み、中国とは、さまざまな課題を率直に話す一方で、経済的結び付きを拡大しようと試みました。モディ氏はわずか1年間で18カ国を訪問しました。

国間に存在する現実の問題を取り繕おうとしてきた過去の指導者に慣れてきた者からすると、新しい息吹に感じられます。世界で最も人口が多く、最大の経済成長国であるインドと中国の関係強化することは、2国だけでなく世界中の他国も利することになります。両国の人口を合わせると20億～25億人にもなります。2つの経済大国の関係が進展することによって、今年度1千億ドル規模の貿易量をもたらすと予測されています。

モディが変える インド経済

第3回

印中関係の今後は 世界に何をもちたらすか

インドと中国。合わせると20億人を超える人口を抱える両国の間には、これまで国境紛争などいくつもの問題を内包してきた。だがモディ氏は、首相になって初めて中国を訪問し、経済面を中心に、関係改善に向けて舵を切った。焦点となる5つの分野を中心に、具体的な取り組みも始まった。

スシユマ・スワラージ氏は、外務大臣の地位に就いた女性としては、元インド首相のインディラ・ガンディー氏に次いで2人目です。これは、モディ首相が重要ポストを女性に割り当て、女性の社会進出を後押しした象徴

的出来事です。スワラージ氏は、メディアとの初めての会見で、「Fast Track Diplomacy(高速外交)」というキャッチフレーズを掲げ、積極的、力強い、繊細という3点を強調しました。

インド外交で経済的要素を重視することは、新しいものではありません。しかし、過去のインドの課題の多くは、地域や世界におけるインドの立場や他国とのかわり方に関するアイデア不足から生じたのではなく、結論が出るまで約束を遂行する能力の不足から生じたものです。モディ政権の1年目で浮かび上がったのは、誓約を最後までやり抜くための持続的な努力であり、そのこと自体が過去の決別を表しています。

モディ氏は、中国との関係について、両国の経済的結び付きの強化、および地域問題や国際的問題への取り組みで協力することによる一方で、国境紛争や中国のパキスタンとの関与のあり方への懸念などについては率直に発言してきました。モディ氏のこうしたアプローチは、両

また中国はインドのインフラ整備や今後5年間の産業プロジェクトに対して200億ドルの投資を行うことを約束しました。

モディ首相の中国訪問で 注目の5つの焦点分野

インドは、かつて中国を遠いイメージで見えていました。インドのメディアには印中の国境紛争の記事があふれていても、その詳細を理解する人はあまりいませんでした。中国はこれまでインドのことを軽視しており、インド経済が成長していることに気付いている中国人はあまりいません。問題は、互いをどう見ているかという認識の差です。明らかにインド人の中には、中国への羨望、不安、さらには恐怖を感じている者もいます。これは1962年にインドが中国との国境紛争でトラウマ的な敗北

を喫した結果と言えます。しかしその他の原因もあります。中国のパキスタンとの関係、最近の中国のインド洋への進出などです。中国人の中には、インドの米・日本との関係を懸念して「インドはこの領域に関しては慎重に動きを進めてきました。」

5月にモディ氏は首相就任後、初の訪中を行いました。これには焦点をあてるべき5つの分野が存在します。最初に、国境紛争解決に向けた継続的な取り組みです。2番目に国境と水域の平和・安定を維持するための取り組みです。3番目に2国間関係、経済協力の強化や河川水、チベット問題などです。4番目に多国間問題での印中の協力です。最後に、米、日本、パキスタン、イラン、西アジアなどの第3国に関連する戦略的なビジネス面

での改善です。

印中関係の改善は、大半が好感を持って受け止められていますが、一方でインドと中国の新しい関係が両国にとって力の源になるのか、あるいは過去に生じた紛争問題と同じことになるのか用心深く見守ろうとする人も少ないながら存在します。



帝羽ニルマラ純子

(てい・にるまら・じゅんこ)インド共和国・バンガロール生まれ。法政大学大学院修了(イノベーションマネジメント専攻)。日印コンサルタント会社起業を経て、現在インドビジネスアドバイザー。来日以来16年間で、日本企業の海外展開、外国企業の日本市場参入支援を中心に活躍。「日本人が理解できない混沌(カオス)の国インド 政権交代で9億人の巨大中間層が生まれる」(日刊工業新聞社)など著書多数。